

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 20 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02253

研究課題名(和文) 戦前期東アジアにおける観光現象と鉄道事業の相互性に関する総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study of the reciprocity of tourism and railways in prewar East Asia

研究代表者

千住 一 (SENJU, Hajime)

立教大学・観光学部・准教授

研究者番号：50409546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、これまであまり積極的な学术交流が見られなかった観光史および鉄道史の研究者計10名が協働し、観光と鉄道のあいだに看取される相互性についての考察を行った。10名のこれまでの研究実績を踏まえて「戦前期東アジア」という考察範囲を設定し、計画どおり当初の2年間は各メンバーが個別研究を行った。

最終年度には、計画どおり研究活動の総括として公開シンポジウムを開催し、各個別研究の接続を試みた。シンポジウムは、「観光と政策」、「観光と鉄道」、「観光と外地」のセッションに分けて行われ、戦前期東アジアにおいて観光と鉄道は、それぞれの特性を拡張させながら相互補完的に進展していったことが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまであまり積極的な交流が見られなかった観光史および鉄道史の研究者が協働し、「戦前期東アジア」という共通する考察対象の下、観光と鉄道のあいだに看取される相互性についての検討を行った点にある。これにより、観光史、鉄道史ともに自らの立場を相対化しつつ、両者の相互補完的な関係を強く認識することができた。

本研究の社会的意義は、これまであまり研究成果が公開されていない「戦前期東アジア」における観光と鉄道の相互性というテーマに対して、一定の成果を社会に還元することができた点にある。特に、最終年度に行った公開シンポジウムはそのための手段として大きな役割を果たしたと言える。

研究成果の概要(英文)：In this study, ten researchers studying tourism history and the history of railways between which fields there has thus far been little proactive academic exchange collaboratively investigated the perceived reciprocity between tourism and railways. On the basis of the research accomplishments of the ten researchers, it was decided that the investigation would focus on “prewar East Asia,” and in accordance with the plan the members carried out individual studies for the first two years.

In the final year, in accordance with the plan, a public symposium was held to review the research activities, and attempts were made to form links between individual studies. The symposium was divided into the sections “Tourism and Politics,” “Tourism and Railways,” and “Tourism and Overseas Territories.” It became clear that in prewar East Asia, tourism and railways developed in a mutually complementary way even as their unique characteristics intensified.

研究分野：観光史

キーワード：観光史 鉄道史 戦前期東アジア 政策 外地 ツーリズム 交通 鉄道

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 観光史的背景

本研究が開始された当初において、観光学における観光史的取組み(観光に対する歴史的アプローチ)は、継続的に新たな知見を蓄積する傾向を見せつつあった。特にこうした動向は、日本近代の領域において顕著であり、日本内地を考察対象とする研究、日本植民地を考察対象とする研究の双方において、その数、質ともに増加、向上の傾向にあった。

また、日本近代における観光を分析しようとする際、大量かつ高速、当時において大衆的で最先端の交通手段であった鉄道の存在が極めて重要であることは言うまでもない。近年の観光史研究においては、こうした鉄道の存在を重視するものが多く見られる。

これらの研究動向を背景とし、観光史に従事する研究者と鉄道史に従事する研究者が協働して研究活動を行うという本研究の着想に至った。

(2) 鉄道史的背景

本研究が開始された当初において、鉄道史(特に本研究において協働することとなった研究者は主に鉄道に対する経済史的アプローチを採用している)による研究蓄積は言うまでもなく膨大であった。そうしたなか、モノの流通や地域経済への影響、企業経営のありようなどといった従来の鉄道史的関心とは異なる、人の移動や文化史的側面に着目しようとする動向が顕著になってきていた。

こうした動向にもとづき、鉄道と観光の関係に着目しようとする鉄道史による観光へのアプローチが活発化した。観光史に従事する研究者と鉄道史に従事する研究者が協働して研究活動を行うという本研究の着想は、こうした鉄道史における研究動向をも背景としている。

(3) 「戦前期東アジア」という考察対象

上記したように、観光史、鉄道史ともに共通する関心領域は多く存在していたものの、本研究が開始された当初において両研究領域を架橋するような試みはあまり多く見られなかった。また、観光史にせよ、観光を対象とする鉄道史にせよ、日本国内あるいは日本植民地における個別事例を取り上げる傾向が強く、また、考察対象とされる時代についても比較的限定する傾向が見られた。

こうした動向を背景に、本研究では、観光史と鉄道史の相互性を担保しながら、日本国内/日本植民地という考察地域間の連続性/非連続性について検討すべく、また、本研究に従事する10名の研究者によるこれまでの研究実績を踏まえ、「戦前期東アジア」という時空間を共通の考察対象・検討課題として設定した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アジア・太平洋戦前期における東アジア地域を考察対象とし、東アジアの各地で成立、発展、展開した観光と鉄道とのあいだに看取される有機的な相互関係を、「戦前期東アジア」という時間的・空間的枠組みのなかで明らかにすることにある。

本研究では、東アジアを「日本内地」と「日本植民地」に大別し、計10名からなる研究組織により、観光史と鉄道史の立場から個別研究の蓄積を行う。その後、考察地域や方法論をこえた総合的な見地から一連の研究成果を再整理することにより、観光学への寄与を目指す。

3. 研究の方法

(1) 研究組織

本研究のメンバーは観光史と鉄道史の研究者10名からなっており、それぞれが専門とする領域や地域は異なる。そのため、当初計画どおり10名を日本国内の事例を扱う「内地」班と、日本植民地の事例を扱う「外地」班のふたつに分けて研究活動を行うこととなった。前者は「戦前期東アジア」のなかでも日本内地において顕在化した事象を取り上げ、後者は「戦前期東アジア」のなかでも日本植民地において顕在化した事象を取り上げることとしたが、両班間において緊密な連絡や研究成果の共有、有機的な情報交換を実現するため、下記のとおり定期的な会合を研究会形式で行った。

(2) 個別研究の実施

上記のとおり、10名のメンバーは「内地」を考察対象とする者と「外地」を考察対象とする者に二分された。当初計画どおり、最初の2年間についてはメンバー各自が個別に研究を進め、定期的に関催された研究会において研究成果の共有や情報交換を行った。また、メンバー各自は個別研究を進めるなかで、書籍執筆、論文投稿、学会発表などのかたちで適宜研究成果を公表していった。

(3) 公開シンポジウムの開催

当初計画どおり、研究活動の最終年度において、研究成果の総括と社会への還元を行うべく、公開シンポジウムを企画、開催した。公開シンポジウムは「帝国日本の鉄道と観光」と銘打ち、本研究グループを主催、研究代表者が所属する立教大学観光学部を共催として開催され、観光史研究者や鉄道史研究者のみならず、近接領域の研究者や大学院生、一般人も多く参加した(参加

者は延べ約 60 名にのぼる。

公開シンポジウムは、研究代表者による趣旨説明を皮切りに、「観光と政策」、「観光と鉄道」、「観光と外地」の 3 セッションによって構成され、各セッションでは 3 名のメンバーによる個別の研究報告に続いて外部から招いた研究者によるコメント、会場を含めた質疑応答が行われた。また、公開シンポジウムの最後には、これまで観光に関わる鉄道史研究を牽引してきた最年長のメンバーによる総括が述べられた。

なお、10 名のメンバーのうち 1 名は公開シンポジウム開催時に海外にて研究活動に従事していたため、公開シンポジウムへの参加が叶わなかった。

(4) 具体的な実施スケジュール

2017 年度

2017 年度は当初計画どおり、個別研究の実施とメンバー間における研究成果の共有による課題の明確化を繰り返した。緊密な連絡や研究成果の共有、有機的な情報交換を実現するため、多くのメンバーが参加して実施された研究会の具体的な開催スケジュールは次のとおりである。

- ・2017 年 5 月 21 日に立教大学池袋キャンパスにて開催
- ・2017 年 9 月 30 日に立教大学池袋キャンパスにて開催
- ・2017 年 12 月 10 日に立教大学池袋キャンパスにて開催

2018 年度

2018 年度は当初計画どおり、個別研究の実施とメンバー間における研究成果の共有による課題の明確化を繰り返した。緊密な連絡や研究成果の共有、有機的な情報交換を実現するため、多くのメンバーが参加して実施された研究会の具体的な開催スケジュールは次のとおりである。

- ・2018 年 7 月 1 日に立教大学池袋キャンパスにて開催
- ・2018 年 11 月 24 日に立教大学池袋キャンパスにて開催

2019 年度

2019 年度は当初計画どおり、これまでの個別研究の成果を総括してひろく社会に還元するため、公開シンポジウムを企画した。そのため、多くのメンバーが参加する事前準備・検討会を次のスケジュールで行い、各個別研究の成果共有ならびに各研究間の相互性などについての確認を行った。

- ・2019 年 7 月 7 日に立教大学池袋キャンパスにて開催
- ・2019 年 11 月 23 日に立教大学池袋キャンパスにて開催

こうした事前準備を経て 3 セッション 9 報告から構成されるプログラムを確定するとともに、当初計画どおり、各報告に深く関係する知見を有する研究者 3 名をコメンテータとして国内外から招聘し、次のとおり公開シンポジウムを開催した。

- ・2019 年 12 月 22 日に立教大学池袋キャンパスにて開催

4. 研究成果

(1) 各メンバーによる成果

千住 一 (研究代表者)

国策として外客誘致政策が立案される過程における鉄道事業の位置づけを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。また、2017 年度に開催された日本植民地研究会第 25 回全国研究大会では、「日本植民地における鉄道と観光」という共通論題を組織し、問題提起を行った。なお、公開シンポジウムでは「観光と政策」のセッションにおいて、「国際観光局と交通 国際観光委員会と東洋観光会議に着目して」というタイトルで研究報告を行い、政策を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

李 良姫 (研究分担者)

朝鮮総督府鉄道局を中心として立案された観光政策の変遷過程を出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。なお、公開シンポジウムでは「観光と政策」のセッションにおいて、「日本統治期朝鮮における鉄道と観光政策」というタイトルで研究報告を行い、政策を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

林 采成 (研究分担者)

朝鮮において展開された朝鮮鉄道が経営に関わったホテルのありようを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、学会発表、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。また、2017 年度に開催された日本植民地研究会第 25 回全国研究大会では、「日本植民地における鉄道と観光」という共通論題を組織し、「旅中の休みの近代化 植民地期朝鮮における鉄道ホテルの開業とその経営」というタイトルで研究報告を行い、後にそれを論文化した。なお、公開シンポジウムでは「観光と外地」のセッションにおいて、「日本占領下の山東鉄道の運営と沿線観光の展開」というタイトルで研究報告を行い、外地を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

老川 慶喜 (研究分担者)

日本内地各地における鉄道事業の展開とともに立ち上がっていった回遊列車を出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。なお、公開

シンポジウムでは「観光と鉄道」のセッションにおいて、「回遊列車の流行 明治期日本の鉄道と「行楽」というタイトルで研究報告を行い、鉄道事業を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

高 媛（研究分担者）

満洲において展開された南満洲鉄道株式会社が経営に関わったヤマトホテルのありようを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。また、2017 年度に開催された日本植民地研究会第 25 回全国研究大会では、「日本植民地における鉄道と観光」という共通論題を組織し、「満鉄の観光映画 『内鮮満周遊の旅・満洲篇』(1937 年)を中心に」というタイトルで研究報告を行い、後にそれを論文化した。なお、公開シンポジウムでは「観光と政策」のセッションにおいて、「戦前における日本人学生の満洲旅行 在満日本人社会との連動を中心に」というタイトルで研究報告を行い、外地を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

杉山 里枝（石井 里枝）(研究分担者)

中京圏のなかでも、特に名古屋鉄道が行った観光地開発のありようを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆などにより研究成果の公表を行った。海外にて研究活動に従事していたため、公開シンポジウムへの参加が叶わなかったが、鉄道事業を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにする研究成果を公表している。

曾山 毅（研究分担者）

台湾における鉄道事業の展開とともに活発化、複雑化した修学旅行を出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆などにより研究成果の公表を行った。また、2017 年度に開催された日本植民地研究会第 25 回全国研究大会では、「日本植民地における鉄道と観光」という共通論題を組織し、「日本統治期台湾の教育機関における修学旅行」というタイトルで研究報告を行い、後にそれを論文化した。なお、公開シンポジウムでは「観光と鉄道」のセッションにおいて、「『台湾鉄道旅行案内』における視察・観光対象の分布と旅行空間 台湾総督府発行「史蹟名勝天然記念物事業関連報告書」との比較を通じて」というタイトルで研究報告を行い、鉄道事業を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

高嶋 修一（研究分担者）

日本内地各地における鉄道事業の展開とともに高度化されていった供食サービスを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、学会発表、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。なお、公開シンポジウムでは「観光と鉄道」のセッションにおいて、「日本の鉄道供食産業に関する史的考察 1920～30 年代の東海道線・東華軒と駅弁事業」というタイトルで研究報告を行い、鉄道事業を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

平井 健介（研究分担者）

台湾における鉄道事業の展開とともに立ち上がっていった旅行記を出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、学会発表、図書執筆などにより研究成果の公表を行った。なお、公開シンポジウムでは「観光と外地」のセッションにおいて、「日本植民地期台湾における旅人宿の整備」というタイトルで研究報告を行い、外地を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

渡邊 恵一（研究分担者）

九州圏のなかでも、特に島原鉄道が行った観光地開発のありようを出発点として、一連の研究活動を行った。論文執筆、学会発表などにより研究成果の公表を行った。なお、公開シンポジウムでは「観光と政策」のセッションにおいて、「戦前期雲仙における観光客と国際観光政策」というタイトルで研究報告を行い、政策を切り口に観光と鉄道のあいだに看取される相互性の一端を明らかにした。

（２）公開シンポジウムにおける成果

公開シンポジウムにおいて実現した、各セッションでの各メンバーによる個別研究報告、コメントータによる指摘、会場を含めた質疑応答といった知的循環により、これまであまり積極的に論じられてこなかった観光と鉄道のあいだの相互的な関係性が「戦前期東アジア」という枠組みのなかで総合的に検討されることとなった。

こうした成果は、これまで時代的にも地域的にも限定されるかたちで行われてきた観光史および鉄道史における研究動向に、一定のインパクトを与えるものであると言える。特に「東アジア」という空間設定は、日本国内における事象を対象とした諸研究のみならず、日本国外の特に中国、韓国、台湾における事象を対象とした諸研究に対しても一定のインパクトを与えるものであると言える。加えて、「戦前期」という時代設定は、「内地」と「外地」のあいだの連続性/非連続性に注目することの意義を、これまで以上に浮き彫りにしたと言える。

しかしながら、「戦前期東アジア」における観光と鉄道の相互性については、未だ明らかになっていない側面も多く存在する。したがって、個別研究および公開シンポジウムにおいて得られた成果は、今後も継続されるであろう同様の枠組みによる研究群へ有機的に接続されるだけでなく、後続の研究群によって批判的に検証されることを期待している。

なお、各メンバーによる個別研究を基盤として開催された公開シンポジウムでの成果は、シンポジウムにおいて得られた知見を追加するかたちで各メンバーによって学术论文として執筆され、論文集形式の研究書として2021年度に刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 高嶋修一	4. 巻 12
2. 論文標題 戦時下における栗原鉄道の経営	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 255-285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 李良姫	4. 巻 25
2. 論文標題 民宿経営から見る観光振興への取り組みの現状	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫大学論集	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 曾山毅	4. 巻 7
2. 論文標題 明治中期に形成された修学旅行と行軍の分離	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 玉川大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 千住一	4. 巻 6巻2号
2. 論文標題 1930年のおみやげ：帝国工芸会による関与とその意味	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 169-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千住一	4. 巻 30号
2. 論文標題 特集論文・問題提起：日本植民地における鉄道と観光	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千住一	4. 巻 239号
2. 論文標題 国際観光局の10年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 観光文化	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高媛	4. 巻 28号
2. 論文標題 満鉄の観光映画：『内鮮満周遊の旅 満洲篇』（1937年）を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 旅の文化研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 43-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 老川慶喜	4. 巻 33号
2. 論文標題 National Rail and Tourism from the Russo-Japanese War to the Asia-Pacific War : The Rise and Fall of a Business Approach to Rail Management	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan review : Journal of the International Research Center for Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 87-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾山毅	4. 巻 33号
2. 論文標題 School Excursions and Militarism: Continuities in Touristic Shugaku Ryoko from the Meiji Period to the Postwar	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan review : Journal of the International Research Center for Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 29-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾山毅	4. 巻 30号
2. 論文標題 日本統治期台湾の修学旅行と鉄道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林采成	4. 巻 30号
2. 論文標題 植民地朝鮮における鉄道ホテルの開業とその経営	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林采成	4. 巻 23期
2. 論文標題 朝鮮植民地時期的鐵道技術移植與『鮮鐵型』鐵道的成形	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新北大史学	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山(石井)里枝	4. 巻 67巻2号
2. 論文標題 日本における近代ツーリズムの展開と観光事業：名古屋鉄道の事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 國學院経済学	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊恵一	4. 巻 36号
2. 論文標題 書評・中西聡著『旅文化と物流：近代日本の輸送体系と空間意識』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鉄道史学	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高嶋修一	4. 巻 62号
2. 論文標題 鉄道史研究は交通学に貢献できるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 交通学研究	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李良姫	4. 巻 23
2. 論文標題 韓国における鉄道の保存と観光資源化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 兵庫大学論集	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井健介	4. 巻 83巻1号
2. 論文標題 日本国内における分業と相剋 製糖業を事例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 老川慶喜	4. 巻 3
2. 論文標題 戦後北軽井沢の観光開発をめぐる長野原町と観光資本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ATOMI 観光コミュニティ学部紀要	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林采成	4. 巻 297
2. 論文標題 金剛山電鉄における電力・鉄道兼業体制の成立とその経営成果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京経大会誌 (経済学)	6. 最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 高嶋修一
2. 発表標題 書評 恩田睦著『近代日本の地域発展と鉄道』
3. 学会等名 鉄道史学会 2019年度第1回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林采成
2. 発表標題 Railroad Workers and Tuberculosis
3. 学会等名 The Social and Cultural History of Disease and Medicine in the East and the West (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊 患一
2. 発表標題 奥多摩電気鉄道の成立と展開
3. 学会等名 鉄道史学会 2019年度第1回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千住 一
2. 発表標題 国際観光局と交通 国際観光委員会と東洋観光会議に着目して
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊 患一
2. 発表標題 戦前期雲仙における観光客と国際観光政策
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李 良姫
2. 発表標題 日本統治期朝鮮における鉄道と観光政策
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 老川 慶喜
2. 発表標題 回遊列車の流行 明治期日本の鉄道と「行楽」
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高嶋 修一
2. 発表標題 日本の鉄道供食産業に関する史的考察 1920-30年代の東海道線・東華軒と駅弁事業
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾山 毅
2. 発表標題 『台湾鉄道旅行案内』における視察・観光対象の分布と旅行空間 台湾総督府発行「史蹟名勝天然記念物事業関連報告書」との比較を通じて
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井 健介
2. 発表標題 日本植民地期台湾における旅人宿の整備
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 采成
2. 発表標題 日本占領下の山東鉄道の運営と沿線観光の展開
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高 媛
2. 発表標題 戦前における日本人学生の満洲旅行 在満日本人社会との運動を中心に
3. 学会等名 公開シンポジウム「帝国日本の鉄道と観光」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 近代アジア経済史における技術移転：製糖業の事例
3. 学会等名 立教大経済史・経営史ワークショップ（第2回）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 平井健介著『砂糖の帝国：日本植民地とアジア市場』（東京大学出版会、2017年9月）をめぐって
3. 学会等名 社会経済史学会近畿部会2018年度1月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 Energy Use in the Sugar Industry in Colonial Taiwan
3. 学会等名 4th The Asian Association of World Historian Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 Driving Forces of 'Empire of Sugar': the Technological Progress in the Taiwanese Sugar Industry under Japanese Colonial Rules (1895-1945)
3. 学会等名 臺北醫科大學通識教育中心近代臺灣與日本的飲食交流國際研討會 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林采成
2. 発表標題 日本国有鉄道の経営分析：生産性と収益性を中心として
3. 学会等名 鉄道史学会全国大会「日本国有鉄道（JNR）の再検討」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高嶋修一
2. 発表標題 コメント：A Quantitative Analysis of Lighthouse Provision
3. 学会等名 日本経済学会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高嶋修一
2. 発表標題 鉄道史研究は交通学に貢献できるか
3. 学会等名 日本交通学会第77回研究報告会基調講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 日本植民地産業のエネルギー利用 台湾糖業を事例に
3. 学会等名 社会経済史学会第86回全国大会パネルディスカッション報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 日本植民地産業のエネルギー利用 台湾糖業を事例に
3. 学会等名 日本台湾学会第19回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井健介
2. 発表標題 日本殖民地的産業化與技術者
3. 学会等名 國際學術シンポジウム『國家政策與經濟發展』（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林采成
2. 発表標題 殖民地時期朝鮮的鐵道技術移植與『鮮鐵型』鐵道的成形
3. 学会等名 台北大學日本研究中心・史訪会「國家政策與經濟發展：近代東亞政治經濟發展脈絡的再檢視」（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 千住一
2. 発表標題 問題提起
3. 学会等名 日本殖民地研究会第25回全國研究大會共通論題報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林采成
2. 発表標題 旅中の休みの近代化：植民地期朝鮮における鐵道ホテルの開業とその經營
3. 学会等名 日本殖民地研究会第25回全國研究大會共通論題報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 曾山毅
2. 発表標題 日本統治期台湾の教育機関における修学旅行
3. 学会等名 日本植民地研究会第25回全国研究大会共通論題報告
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高媛
2. 発表標題 満鉄の観光映画：『内鮮満周遊の旅・満洲篇』（1937年）を中心に
3. 学会等名 日本植民地研究会第25回全国研究大会共通論題報告
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 高媛、田島奈都子、岩間一弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 236 (5-45)
3. 書名 『旅行満洲』解説・総目次・索引（「満洲国時代の旅行文化の一断面 『旅行満洲』を読む」高媛）	

1. 著者名 高嶋 修一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 232
3. 書名 都市鉄道の技術社会史	

1. 著者名 古田和子、岸本美緒、小川道大、太田淳、小林篤史、荒武達朗、杉山伸也、久末亮一、平井健介、竹内祐介、丸川知雄、木村福成	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 456 (309-347)
3. 書名 都市から学ぶアジア経済史 (「台南：帝国日本の形成と台湾」平井健介)	

1. 著者名 老川 慶喜	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 224
3. 書名 満州国の自動車産業	

1. 著者名 白坂蕃、稲垣勉、小沢健市、古賀学、山下晋司、鈴木涼太郎、石井昭夫、千住一、溝尾良隆、花井友美、中村哲、須永和博、フंक・カロリン、福永昭、T. E. ジョーンズ、鈴木文彦、井田仁康、青木栄一、臺純子、内田彩ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 464 (18-19)
3. 書名 観光の事典 (「観光と植民地」千住一)	

1. 著者名 須永徳武、谷ヶ城秀吉、加藤圭木、竹内祐介、平山勉、清水美里、安達宏昭、三ツ井崇、細谷亨、千住一、高媛、林采成、駒込武、松田利彦、李海訓、大浜郁子、湊照宏、金富子、都留俊太郎、古川宣子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320 (62-65、130-131、189-191)
3. 書名 日本植民地研究の論点 (「鉄道」林采成、「観光」千住一、「映画」高媛)	

1. 著者名 老川慶喜	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 320
3. 書名 日本鉄道史 昭和戦後・平成篇	

1. 著者名 林 采成	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 鉄道員と身体	

1. 著者名 李 良姫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 228
3. 書名 民族分断と観光：金剛山観光から見る韓国・北朝鮮関係	

1. 著者名 武田晴人、石井晋、池元有一、呂寅満、日向祥子、高嶋修一、金容度、内藤隆夫、石井里枝、長谷部宏一、宮崎忠恒、祖父江利衛、吉田和彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 364 (131-158)
3. 書名 日本経済の構造と変遷（「全体史としての武田史学：その史学史的な位置づけ」高嶋修一）	

1. 著者名 池享、櫻井良樹、陣内秀信、西木浩一、吉田伸之、高嶋修一、柘植信行、寺門雄一、吉田律人、鈴木勇一郎、出口宏幸、鈴木智行、今泉飛鳥、角和裕子、武田庸二郎、松崎元樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160 (46-49、56-61、82-85、104-109、110-116)
3. 書名 みる・よむ・あるく 東京の歴史 6 (「第二章 はじめに」高嶋修一、「蒲田梅屋敷と郊外行楽」高嶋修一、「第三章 はじめに」高嶋修一、「東京西郊の土地整理」高嶋修一、「駒沢 幻のオリンピック」高嶋修一)	

1. 著者名 平井 健介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 280
3. 書名 砂糖の帝国	

1. 著者名 Furuta, Kazuko, Setobayashi, Masataka, Takahashi, Chikashi, Hirai, Kensuke, Hellyer, Robert, Zhang, Wei, Grove, Linda, Chan, Kai Yiu, Tanimoto, Masayuki, Ito, Asei	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 286 (73-91、183-201)
3. 書名 Imitation, Counterfeiting and the Quality of Goods in Modern Asian History (「Two Paths Toward Raising Quality: Fertilizer Use in Rice and Sugarcane Cultivation in Colonial Taiwan (1895-1945)」Hirai, Kensuke、「Assimilation and Industrialization: the Demand for Soap in Colonial Taiwan」Hirai, Kensuke)	

1. 著者名 田中祐介、柿本真代、河内聡子、新藤雄介、中村江里、川勝麻里、大野ロベルト、中野綾子、康潤伊、堤ひろゆき、徳山倫子、磯部敦、高媛、大岡響子、宮田奈奈、西田昌之、松園斉、島利栄子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 568 (397-426)
3. 書名 日記文化から近代日本を問う (「戦前期満洲における中国人青年の学校生活 南満中学堂生の『学生日記』(一九三六年)から」高媛)	

1. 著者名 老川 慶喜	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 232
3. 書名 鉄道と観光の近現代史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 良姫 (LEE Yanghee) (30545421)	兵庫大学・現代ビジネス学部・教授 (34524)	
研究分担者	林 采成 (LIM Chaisung) (40760228)	立教大学・経済学部・教授 (32686)	
研究分担者	老川 慶喜 (OIKAWA Yoshinobu) (10168841)	跡見学園女子大学・観光コミュニティ学部・教授 (32401)	
研究分担者	高 媛 (KO En) (20453566)	駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授 (32617)	
研究分担者	杉山 里枝(石井里枝) (SUGIYAMA ISHII Rie) (00609604)	國學院大學・経済学部・教授 (32614)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	曾山 毅 (SOYAMA Takeshi) (30308100)	玉川大学・観光学部・教授 (32639)	
研究分担者	高嶋 修一 (TAKASHIMA Shuichi) (40409561)	青山学院大学・経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	平井 健介 (HIRAI Kensuke) (60439221)	甲南大学・経済学部・准教授 (34506)	
研究分担者	渡邊 恵一 (WATANABE Keiichi) (00267387)	駒澤大学・経済学部・教授 (32617)	